

ともに生きる

翔子



田村 ゆうすけ

神奈川県議会議員 瀬谷区選出

田村ゆうすけ

検索

36 歳

神奈川県議会 憲章策定

津久井やまゆり園事件 この悲しみを力に、 ともに生きる社会を実現します

平成 28 年 7 月 26 日、障害者支援施設である県立「津久井やまゆり園」において 19 人が死亡し、27 人が負傷するという、大変痛ましい事件が発生しました。この事件は、障がい者に対する偏見や差別的思考から引き起こされたと伝えられ、障がい者やそのご家族のみならず、多くの方々に、言いようのない衝撃と不安を与えました。私たちは、これまでも「ともに生きる社会かながわ」の実現をめざしてきました。そうした中でこのような事件が発生したことは、大きな悲しみであり、強い怒りを感じています。このような事件が二度と繰り返されないよう、私たちはこの悲しみを力に、断固とした決意をもって、ともに生きる社会の実現をめざし、ここに「ともに生きる社会かながわ憲章」を定めます。



翔子

題字「ともに生きる」
ダウン症の女流書家 金澤翔子
この憲章は神奈川県議会と神奈川県が共同して策定したものです。

ともに生きる社会
かながわ憲章

- 私たちは、あたたかい心をもって、すべての人のいのちを大切にします
- 私たちは、誰もがその人らしく暮らすことのできる地域社会を実現します
- 私たちは、障がい者の社会への参加を妨げるあらゆる壁、いかなる偏見や差別も排除します
- 私たちは、この憲章の実現に向けて、県民総ぐるみで取り組みます

平成 28 年 10 月 14 日 神奈川県

昨年、7月26日、障害者支援施設である県立津久井やまゆり園において、19人が死亡し、27人が負傷するという大変痛ましい事件が発生しました。この事件は、容疑者の障害者に対する偏見や差別的思考が凶悪な犯行に駆り立てたと報じられています。このたびの事件発生を受け、私が所属する県議会厚生常任委員会では、再発防止に向けた取り組みの充実を図るため、精力的に委員会を開催し、議論を重ねるとともに、関係者の参考人招致や現地視察等を行ってきました。さらに、私自身が委員会において、この問題を決して風化させることなく、早急に内外に私たちの決意を発信するために、『共生憲章』の制定を検討すべきと提案し、多くの関係者の賛同を得て、議会と県当局が共同で『ともに生きる社会かながわ憲章』を策定いたしました。この憲章は、「この悲しみを力に、ともに生きる社会を実現します」との揺るぎない決意を改めて示したものです。このメッセージを内外に力強く発信していくため、2年前に津久井やまゆり園を訪れ、入所者の皆様と交流した経験のあるダウン症の書家・金澤翔子さんに題字の揮毫をお願いし、様々な機会をとらえ活用させていただくことにしました。改めて、私たちは、このたびの事件を決して風化させることなく深く心に刻まなければなりません。一人ひとりのかけがえのない命と尊厳、人格と個性が尊重される社会、誰もが排除されることなく、すべての人が自分らしく暮らし、互いに生きる喜びを分かち合うことのできる真の共生社会の実現に向け、最善を尽くす決意を新たにしています。



神奈川県議会の対応
<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/gikai/p1077751.html>
問い合わせ先: 神奈川県議会事務局総務課 電話 045-210-7524 FAX 045-210-8907



「ともに生きる社会かながわ憲章」

平成 28 年 10 月 14 日策定

瀬谷区において社会福祉へ取り組み



↑ 県立三ツ境養護学校



ヘルプマーク

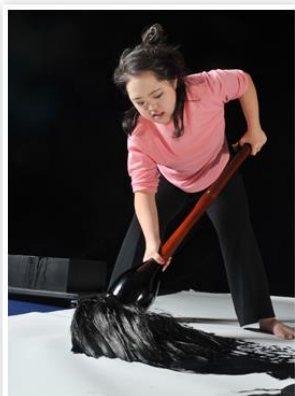
義足や人工関節を使用、内部障害、
ストレス障害など、援助や配慮を
必要としている方を表すマーク

← ヘルプマーク

県立瀬谷西高校において、学校開放時に使用されている車椅子利用者の方から、「体育館が2階のため不自由している」という話を頂いておりました。去年、障害者差別解消法が施行し、県でも憲章を策定したことを受け、県立高校におけるハード面のバリアフリー化(エレベーターの設置を含む)を特別委員会で指摘。耐震工事(まなびや計画)と同時に、工事を行う方向で施策の中に盛り込むよう、要望しました。

県立三ツ境養護学校においては、雨が降るたびに授業中に雨漏りがひどかったことや、体育館も同様に雨漏りがしてしまうことから、これも直接委員会で取り上げ指摘し、全面防水改修工事の予算取りも行い、昨年8月に工事が完了しました。昨年9月議会で、神奈川県でのヘルプマークの導入も決定しました。これまでマタニティマークは認識されてきましたが、このヘルプマークは、見た目では分からない内部障害を持つ方々が安心して交通機関を利用できる環境や、非常時に内部障害をいち早く認識できるためのものです。

題字「ともに生きる」ダウン症の女流書家 金澤 翔子



翔子さんは1985年6月、東京で誕生した。当時42歳だった母の泰子さんは初めての出産に有頂天になった。しかし、医師からダウン症と宣告されると、一転して絶望の淵に立たされた。苦悩と悲しみの中、泣きながら翔子さんに授乳しているとき、幼子の翔子さんが、小さな手を差し伸べて母の涙を拭き、微笑んだという。「翔子の生きようとする意志、優しさや賢さに救われた」と、泰子さんは語っている。そして、二人はどの母子にも勝る強い絆で結ばれることになった。翔子さんが5歳の頃、書道の研鑽(けんさん)を積んできた泰子さんは「翔子に友だちを作ろう」と、自宅に書道教室を開いた。子ども4人でスタートしたところ、翔子さんだけ最初から筆を正しく持つことができたので、泰子さんは「この子には書の可能性があるのかもしれない」と直感したという。

小学校に入り、友だちもたくさんでき、平穏な日々を送っていた4年生の時、担任の先生から特別支援学級のある学校に転校するよう告げられた。「こんなに楽しい学校生活なのに、どうして」と反発を感じながらも、仕方なく学校を休むようになった。このつらい時間をどう耐えるか悩んだ泰子さんは、翔子さんに仏教の精髓を276文字で表現した般若心経を書かせることを思いつく。まだ10歳のハンディキャップのある少女にとって、難解な漢字が連なる経文を書くことは、無謀な挑戦に思われた。昼も夜も、書に取り組んだ翔子さん。母の厳しい指導に泣きながら書いた翔子さん。こうして、今でも多くの人に感動を与えてくれる作品「涙の般若心経」は出来上がった。 ※HPより抜粋

神奈川県議会議員(瀬谷区選出)

田村 ゆうすけ

- ・厚生常任委員会 委員
- ・教育スポーツ振興対策特別委員会 事務局長

- ・瀬谷区阿久和西2丁目在住
 - ・習い事 手話教室
 - ・4人男兄弟の長男
 - ・家族は妻、娘2人
 - ・1980年11月29日宮城県仙台市生まれ
 - ・衆議院議員 さかい学の秘書を経て
- 2015年4月 神奈川県議選に初当選



<http://tamura-y.com/>

田村ゆうすけ
で検索

